



総研大ニューズレター

第 105 号 2017. 3 発行

●目次

【今月のトピックス】

大隅良典名誉教授ノーベル賞受賞記念講演会	学融合推進センター
2016 年度 学融合推進センター公募型研究事業・公開研究報告会	学融合推進センター
プレスリリース	
「動物と植物に共通の幹細胞化誘導因子の発見」	広報社会連携室
「食虫植物フクロユキノシタのゲノム解読で食虫性の進化 解明への糸口を開く」	広報社会連携室

【受賞・採択情報】

【イベント情報】

主なイベント予定

3 月 4 日	メディア社会文化専攻打ち上げ兼同窓会
3 月 6 日-3 月 10 日	学融合レクチャー「結晶の対称性・群論-基礎コース」
3 月 11 日	高エネルギー加速器科学研究科 大学院説明会
3 月 24 日	平成 28 年度春季学位記授与式
3 月 24 日	基礎生物学専攻 オープンキャンパス
4 月 11 日	平成 29 年度春季入学式
4 月 11 日-14 日	平成 29 年度前学期フレッシュマンコース
4 月 18 日-4 月 21 日	総合教育科目「ミクロ・マクロ生物学Ⅱ」

【今月のトピックス】

● 大隅良典基礎生物学研究所名誉教授 ノーベル生理学・医学賞受賞記念講演会

本学及び基礎生物学研究所名誉教授である、大隅良典先生の 2016 年ノーベル賞受賞を記念し、2 月 11 日に、「第 22 回自然科学研究機構シンポジウム大隅良典基礎生物学研究所名誉教授ノーベル生理学・医学賞受賞記念講演会」が岡崎市民会館あおいホールにて開催されました。本講演会は、自然科学研究機構、岡崎市並びに岡崎市教育委員会と共に本学が主催し、また研究意欲の向上のため、記念講演会への本学学生の参加を募集し、幅広い専攻より 32 名の参加がありました。

講演会では、大隅先生から基生研での研究を含め、これまでどのように研究を進めてこられたか、また、オートファジーの重要性などを分かりやすくご紹介いただきました。中高生からの質問コーナーでは、会場から様々な質問が出されました。特に、「原発再稼働についてどう思うか」という質問に対しての、「オートファジーが示すように、自然界の生物には、創ったら壊すという機能が備わっている。人間が創る物も、壊せることが大事である」との大隅先生から回答があり、会場の参加者も大いに納得したようでした。大隅先生の講演会の後は、岡崎の学生達による研究発表も行われ、大盛況の内に終了しました。今回の大隅先生のノーベル賞受賞理由の Key publications 4 報告には、当時の本学学生が第一著者の論文も含まれているとのことでした。



講演する大隅名誉教授





入試広報窓口の様子

当日は、特設ブースにて本学の入試広報も行いました。将来研究者を目指したいという小学生を始め、中高生や保護者の方にお立ちよりいただき、本学を紹介することができました。

本講演会への本学学生の参加にあたり、基礎生物学研究所の倉田智子特任助教（本学生命科学研究科基礎生物学専攻・助教併任）を含め、基礎生物学研究所・自然科学研究機構の皆様にご配慮をいただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。



【学融合推進センター 助教 小松睦美
学融合推進センター 助教 塚原直樹】

● 2016 年度 学融合推進センター公募型研究事業・公開研究報告会

2017 年 1 月 26 日（木）～27 日（金）に、2016 年度学融合推進センター公募型研究事業・公開研究報告会が葉山キャンパス 学融合推進センター1 階の福利厚生室にて開催されました。本報告会は、総研大での公募型研究課題を進めている研究者が一堂に会して研究成果を発表する、重要な機会です。参加者は、総研大教員 43 名（うち葉山教員 20 名）、総研大学生 5 名、他研究機関研究者 4 名、他大学学生 3 名の延べ 55 名が参加しました。

開催に際して、大峯副学長から開会の挨拶があり、総研大及び機構連携の現状等について説明がありました。初日の予定は、「学融合共同研究」5 件の最終報告と 2 件の萌芽的研究会報告、1 件の学生企画事業紹介、意見交換会（シンガポール国立大との部署間連携の紹介も含む）でした。講演時間が限られていたが、全ての発表で進展がまとめられ、各課題が今後も何らかの形で研究を継続していくとの報告がありました。

その後、意見交換会では、岡田学長より乾杯の挨拶があり、参加者それぞれが交流を深めました。翌日の学融合セミナーの講師である末田航氏より、シンガポール国立大との部署間連携に関する紹介もあり、学融合推進センターの塚原直樹助教との共同研究に至る経緯など、興味深い話で盛況となりました。

2 日目は、「学融合共同研究」2 件と「グローバル共同研究」1 件の最終報告がありました。初日と同様に、全ての発表で進展がまとめられ、今後も何等かの形で研究を継続していくとの報告がありました。その後、総合討論として、公募型研究事業に関する総括と意見交換を行いました。いただいた意見の内容については、以下の別項（総合討論のまとめ）に示します。

最後に、鎌田センター長からの閉会挨拶にて、今年度の研究報告会の締めくくりがありました。今年度は延べ 50 名ほどの参加者があり、研究代表者のみでなく、総研大内外の研究分担者・関係者からも多くの参加があり、盛会裏に終了しました。

総合討論のまとめ

総合討論の総括として、研究事業の現在までの歩みと機構連携などの状況の概要を説明し、論文出版費支援に際しての所属名記載方法の注意喚起や、学生も参加できる、これからのイベント情報（4 機構連携 I-URIC コロキウム、大隅先生ノーベル賞受賞記念講演会、グローバル共同研究の国際シンポジウム、学融合セミナー）の紹介を行いました。また、昨年度の公開研究報告会（2016 年 1 月 28 日）の討論の記録を提示し、総合討論のたたき台としました。



研究会の風景

2016学融合推進センター公募型研究事業・公開研究報告会プログラム

- 日時 平成29年1月26日(木)～27日(金)
- 場所 学融合推進センター棟 1階 福利厚生室

1日目 1月26日(木)

タイムテーブル	演題等	研究課題代表者等発表者	採択事業区分	研究期間
13:10_13:40	参加者受付(学融合推進センター棟 1階 福利厚生室)			
13:40_13:45	開会挨拶 大塚 廣 (総合研究大学院大学 副学長)			
○セッション1 13:45_15:15	「学融合共同研究」最終報告 第1部	進行: 斎藤 展之 (センター兼任教員, 先端科学研究科 講師)		
13:45_14:15	社会と研究のインターフェースとしての展示に関する総合的研究	地域文化学専攻 准教授 佐藤 浩司	学融合共同研究	H27～28年度(2ヵ年)
14:15_14:45	大型科学施設の連携で切り拓く表面の科学	加速器科学専攻 准教授 都丸 隆行		H27～28年度(2ヵ年)
14:45_15:15	オーロラと人間社会の過去・現在・未来	極域科学専攻 准教授 片岡 龍峰		H27～28年度(2ヵ年)
15:15_15:30	休憩			
○セッション2 15:30_17:00	「学融合共同研究」最終報告 第2部	進行: 塚原 直樹 (学融合推進センター 助教)		
15:30_16:00	動物福祉学に向けた文理融合研究ーニトリをモデルとしてー	基礎生物学専攻 助教 新村 毅	学融合共同研究	H27～28年度(2ヵ年)
16:00_16:30	自然界の蛍光の世界を理解するー光情報解析と生物学的解析の融合ー	情報学専攻 教授 佐藤 いまり		H27～28年度(2ヵ年)
16:30_16:50	集合写真			
16:50_17:00	休憩(チェックインは懇親会後)			
○セッション3 17:00_18:00	「萌芽的研究会」「学生企画事業」開催報告・事業紹介	進行: 菊地 浩平 (学融合推進センター 助教)		
17:00_17:20	日本人がかかえる英語の諸問題: 研究に必要な英語教育・政策・国民性	統計科学専攻 准教授 島谷 健一郎	萌芽的研究会	H28年度
17:20_17:40	分野融合研究の駆動力となる定量的アプローチの研究	学融合推進センター 准教授 西中 美和	萌芽的研究会	H28年度
17:40_18:00	学生企画事業紹介(清吉)			
18:00_20:00	意見交換会(夕食)・シンガポール国立大との部署間連携関連イベント	乾杯挨拶: 岡田 泰伸 (総合研究大学院大学 学長)		
20:00_	チェックイン(湘南国際村センター)			

2日目 1月27日(金)

タイムテーブル	演題等	研究課題代表者等発表者	採択事業区分	研究期間
8:50_9:20	参加者受付(学融合推進センター棟 1階 福利厚生室)			
○セッション4 9:20_10:40	「学融合共同研究」「グローバル共同研究」最終報告	進行: 小松 睦美 (学融合推進センター 助教)		
9:20_9:50	総研大の研究者および研究を俯瞰的に把握するための情報統合の研究	情報学専攻 教授 武田 英明	学融合共同研究	H27～28年度(2ヵ年)
9:50_10:20	動物が「見えない光」を受容するメカニズムー化学と生理学を融合したアプローチー	構造分子科学専攻 准教授 古谷 祐詞		H27～28年度(2ヵ年)
10:20_11:10	失われた生態システムの多様性解明に向けた古代DNA研究の展開	統計科学専攻 准教授 足立 淳	グローバル共同研究	H26～28年度(3ヵ年)
11:10_11:30	休憩			
○セッション5 11:30_12:30	研究事業説明会・意見交換	進行: 田辺 秀之 (センター兼任教員, 先端科学研究科 准教授)		
11:30_12:10	総合討論・今後の研究事業に関する意見交換			
12:10_12:20	各種連絡事項			
12:20_12:30	閉会挨拶 鎌田 進 (学融合推進センター長)			

以上を受けて、今回の総合討論では、以下のような意見が出されました。

- 現在の枠組みにおいて、学融合研究を実現するためには、文化科学研究科の側からは、文理融合が必須になる仕組みなので、その点のハンディを理解してほしい
- 真の意味での新分野での成果は、既存の学会やアカデミアに受皿がないのではないかと。つまり、論文や学会での成果報告ができない状況になっているものこそ、異分野融合の成果ではないかと。そのような点も評価の上で考慮してほしい
- 今後はオープンサイエンスの形態での情報発信、成果公表などのスタイルもありか?
- 総研大学生や修士生を入れるのはよいことだが、他大学の学生も参加することでけん引されているプロジェクトもあり、学生の内外の区別については、今後どのように取り扱うべきか?
- 学生へのインセンティブ(論文文化など)を考慮すべきで、メインテーマとサブテーマのバランスなどの世話をする方(マネージャー)がいないと成り立たない; 新分野研究・異分野研究にいきなり学生が飛び込むのはリスクではないか
- 異分野融合に参加する学生にメリットのあるような総研大のスキームが必要ではないか。外部資金を取ると同等の賞とか、肩書とかを与えると良いのでは

○基盤の受諾大学院生も積極的に関わられるよう、受諾大学院生・受諾元の大学教員、皆にメリットのあるシステムを考えるべき。異分野がリスクという話があるが、最先端研究はすべてリスクともいえる

○異分野融合についての認定は今後どのように行っていくのか？異分野認定委員会が担当することになると考えられているが、既存の枠組みでの対応をどのようにしていくかに関わっているだろう

このようなフィードバックを、今後の学融合推進センターの事業に活かしていきたいと考えています。



当日の参加者たち（葉山キャンパス共通棟 2 階デッキにて撮影）

当日の様子については、学融合推進センター（CPIS）のホームページでも紹介しておりますので、ぜひ下記 URL をご覧ください。

学融合のひと・こと（ブログ）：<http://cpis.soken.ac.jp/blog/1702.html>

学融合推進センターの事業と活動ページ内、公開研究報告会（平成 28 年度）

<http://cpis.soken.ac.jp/project/research/koukaihoukoku/170126koukaihoukoku.html>

【生命共生体進化学専攻 准教授 田辺秀之
学融合推進センター 助教 小松睦美】

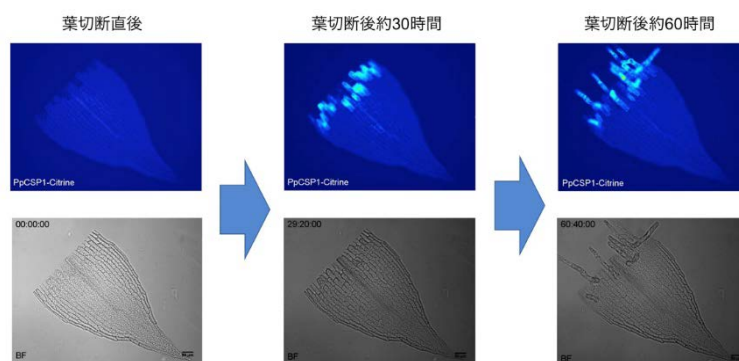
● プレスリリース

「動物と植物に共通の幹細胞化誘導因子の発見」

1 月 27 日（金）、本学基礎生物学専攻の学生 李琛（リ チェン）氏、本学及び基礎生物学研究所の玉田洋介助教、長谷部光泰教授らが所属する国際共同研究チームが、研究成果をプレスリリースしました。プレスリリースの概要は下記の通りです。

【概要】

動物も植物も、受精卵が分裂し、増えた細胞がいろいろな性質を持ち、特殊化（専門用語では分化）することで体ができあがります。一方、特殊化した細胞が受精卵のようにいろいろな性質の細胞を生み出せるように逆戻りすることもできます。ヒトを含む哺乳類では、できあがった細胞にいくつかの遺伝子を誘導することで、いろいろな性質を持った細胞を生み出すことのできる幹細胞（iPS 細胞）に戻すことが可能であることがわ



葉の細胞が原糸体頂端幹細胞に幹細胞化する過程で、PpCSP1 に蛍光タンパク質をつないだ融合タンパク質が幹細胞化する細胞で発現し、原糸体頂端幹細胞になった後も発現し続ける。

かりました。一方、植物では、挿し木や葉挿しで見られるように、動物に比べ、簡単に、できあがった細胞を幹細胞に戻せることが知られていました。しかし、動物と植物はそれぞれ独立に進化してきたことから、それぞれ異なった仕組みで幹細胞が作られると考えられてきました。

上記の李琛 氏、玉田助教、長谷部教授、名古屋大学の佐藤良勝特任講師、金沢大学の西山智明助教らを中心とした研究グループは、コケ植物ヒメツリガネゴケの低温ショックドメインタンパク質（Cold Shock Domain Protein: CSP）遺伝子の進化を研究していたところ、予想外に、この遺伝子がヒメツリガネゴケの幹細胞化を誘導することを発見しました。さらに、哺乳類の iPS 細胞誘導遺伝子の一つである Lin28 と同じグループの遺伝子（専門用語では相同遺伝子）であることもわかりました。幹細胞化を誘導する、動物と植物に共通の遺伝子の初めての発見です。

今後は、CSP 遺伝子の機能を詳しく調べることによって、動物と植物の幹細胞形成の共通性と多様性が明らかになってくることが期待できます。また、どうして植物は動物よりも幹細胞化しやすいのかという、より根源的な疑問の解決にも寄与できるのではないかと考えています。

【発表雑誌】

Nature Communications（ネイチャー・コミュニケーションズ）

2017 年 1 月 27 日掲載（日本時間 1 月 27 日 19 時）

○論文原題：

A Lin28 homolog reprograms differentiated cells to stem cells in the moss *Physcomitrella patens*

○著書：

Chen Li, Yusuke Sako, Akihiro Imai, Tomoaki Nishiyama, Kari Thompson, Minoru Kubo, Yuji Hiwatashi, Yukiko Kabeya, Dale Karlson, Shu-Hsing Wu, Masaki Ishikawa, Takashi Murata, Philip N. Benfey, Yoshikatsu Sato, Yosuke Tamada, and Mitsuyasu Hasebe

【研究グループ】

上記の李 琛、玉田 洋介、長谷部 光泰、佐藤 良勝及び西山 智明 以上の学生・教員を中心とし、西バージニア大学、デューク大学、台湾中央研究院との国際共同研究チームによる成果です。

【研究サポート】

本研究は、戦略的創造研究推進事業 ERATO、科学研究費補助金、頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラムなどの支援のもと行われました。

研究内容の詳細については、下記 URL をご覧ください。

<http://www.soken.ac.jp/news/34170/>

【広報社会連携室】

● プレスリリース

「食虫植物フクロユキノシタのゲノム解読で食虫性の進化解明への糸口を開く」

2 月 7 日（火）に基礎生物学研究所/本学大学院生の福島健児 氏（現日本学術振興会海外特別研究員、コロラド大学在籍）と本学及び基礎生物学研究所の長谷部光泰教授らが所属する研究グループが研究成果をプレスリリースしました。プレスリリースの概要は下記の通りです。

【概要】

通常の植物は栄養分を根から吸収しますが、食虫植物は捕虫葉で小動物を誘引・捕獲・消化・吸収しています。オーストラリア原産の食虫植物フクロユキノシタ *Cephalotus follicularis*（フクロユキノシタ科、カタバミ目）は、捕虫葉と、光合成に特化した平面葉の異なる 2 つの葉を形成します。上記の福島健児氏と長谷部光泰教授らを中心とした国際研究グループは、食虫植物の進化を引き起こした遺伝子の変化を明らかにすることを目指して、フクロユキノシタの約 20 億塩基対の核ゲノム（遺伝子の全体）の概要塩基配列を解読しました。さらに、フクロユキノシタの平面葉と捕虫葉を、培養温度の違いによって作り分けさせることに成功しました。平面葉だけを作る温度で育てたフクロユキノシタと、捕虫葉だけを作る温度で育てたフクロユキノシタを比較することで、食虫性の進化の鍵となる誘引・捕獲・消化・吸収に関わる遺伝子候補が見つかりました。

また、フクロユキノシタに加え、異なる系統で食虫化した東南アジア産のヒョウタンウツボカズラ（ウツボカズラ科、ナデシコ目）、オーストラリア産のアデレーモウセンゴケ（モウセンゴケ科、

ナデシコ目)、北米産のムラサキヘイシソウ(ヘイシソウ科、ツツジ目)を材料に、消化液中に分泌されるタンパク質の解析も行いました。非食虫植物との比較から、同じような酵素活性を持つ複数の遺伝子のうち、特定の遺伝子が系統の異なった食虫植物で繰り返し消化酵素として進化したことがわかりました。そして、この特定の遺伝子は耐病性遺伝子の一つだと推定されました。このことは、食虫植物に進化するには同じような遺伝子を用いて進化した、即ち、進化には限られた道筋しか無かったことがわかりました。さらに、消化酵素遺伝子はおそらく消化液の中で機能できるように互いに似たように進化していることもわかりました。



今後は、食虫性に関わったと推定される遺伝子の捕虫葉での機能解析を行うことで、食虫性がどのような遺伝子がどのように変わることによって進化したのかを明らかにできるようになると考えています。

【発表雑誌】

Nature Ecology and Evolution (ネイチャー・エコロジー アンド エボリューション)

2017年2月6日掲載(日本時間2月7日午前1時)

○論文原題:

The pitcher plant *Cephalotus* genome reveals genetic changes associated with carnivory

○著者:

Kenji Fukushima, Xiaodong Fang, David Alvarez-Ponce, Huimin Cai, Lorenzo Carretero-Paulet, Cui Chen, Tien-Hao Chang, Kimberley M. Farr, Tomomichi Fujita, Yuji Hiwatashi, Yoshikazu Hoshi, Takamasa Imai, Masahiro Kasahara, Pablo Librado, Likai Mao, Hitoshi Mori, Tomoaki Nishiyama, Masafumi Nozawa, Gergő Pálfalvi, Stephen T. Pollard, Julio Rozas, Alejandro Sánchez-Gracia, David Sankoff, Tomoko F. Shibata, Shuji Shigenobu, Naomi Sumikawa, Taketoshi Uzawa, Meiyang Xie, Chunfang Zheng, David D. Pollock, Victor A. Albert, Shuaicheng Li, and Mitsuyasu Hasebe.

【研究グループ】

本研究は上記の福島健児氏と長谷部光泰教授並びに、大阪教育大学の鶴澤武俊准教授、金沢大学の西山智明助教、首都大学東京、東京大学、東海大学の星良和教授、東北大学、名古屋大学、北海道大学の藤田知道教授、宮城大学、中国の北京ゲノム研究所、香港市大学、米国のコロラド大学、バッファロー大学、ネバダ大学、ベルギーのアントワープ大学、スペインのバルセロナ大学、デンマークのコペンハーゲン大学、カナダのオタワ大学の国際共同研究チームによる成果です。

【研究サポート】

本研究は文部科学省科学研究費補助金新学術領域研究

「複合適応形質進化の遺伝子基盤解明(代表:長谷部光泰)」などの支援のもと行われました。

研究内容の詳細については、下記 URL をご覧ください。

<http://www.soken.ac.jp/news/34434/>

【広報社会連携室】

●その他のプレスリリース

○複合科学研究科 極域科学専攻及び国立極地研究所の藤田秀二准教授、川村賢二准教授、本山秀明教授らが研究成果を2月8日(水)にプレスリリースしました。

論文タイトル:

「Climate dependent contrast in surface mass balance in East Antarctica over the past 216 ka」

発表雑誌: Journal of Glaciology

論文内容の詳細については、下記の URL (国立極地研究所 HP) をご覧ください。

「南極ドームふじ・ドームCアイスコアの降雪堆積率比を精密決定
～氷期・間氷期サイクルにおける南極氷床上の降水分布と変動プロセスの解明へ～」
<http://www.nipr.ac.jp/info/notice/20170208.html>

○複合科学研究科 極域科学専攻及び国立極地研究所の川村賢二准教授、本山秀明教授、藤田秀二准教授、古川晶雄助教、東久美子教授、中澤文男助教、奥野淳一助教らが研究成果を2月9日(木)にプレスリリースしました。

論文タイトル:

「State dependence of climatic instability over the past 720,000 years from Antarctic ice cores and climate modeling」

発表雑誌: Science Advances

論文内容の詳細については、下記のURL(国立極地研究所HP)をご覧ください。

「過去72万年間の気候の不安定性を南極ドームふじアイスコアの解析と気候シミュレーションにより解明」

<http://www.nipr.ac.jp/info/notice/20170209.html>

○生命科学研究科 遺伝学専攻及び国立遺伝学研究所の天野孝紀助教、城石俊彦教授、基礎生物学専攻及び基礎生物学研究所の竹花佑介助教、成瀬清教授らが研究成果を2月6日(月)にプレスリリースしました。

論文タイトル:

「Evolution of Shh endoderm enhancers during morphological transition from ventral lungs to dorsal gas bladder」

発表雑誌: Nature Communications

論文内容の詳細については、下記のURL(国立遺伝学研究所HP)をご覧ください。

「腹側にある肺から背側にある浮き袋への形態移行に伴った Shh 遺伝子内胚葉上皮エンハンサーの進化」

https://www.nig.ac.jp/nig/ja/2017/02/research-highlights_ja/20170207.html

○生命科学研究科 遺伝学専攻及び国立遺伝学研究所の城石俊彦教授らが研究成果を2月7日(火)にプレスリリースしました。

論文タイトル:

「Functional roles of Aves class-specific cis-regulatory elements on macroevolution of bird-specific features」

発表雑誌: Nature Communications

論文内容の詳細については、下記のURL(国立遺伝学研究所HP)をご覧ください。

「鳥類の進化に関わった DNA 配列群を同定—鳥エンハンサーの発見—」

https://www.nig.ac.jp/nig/ja/2017/02/research-highlights_ja/20170207.html

○先導科学研究科 生命共生体進化学専攻の那須浩明助教の共同研究が、研究代表者である青山和夫教授が所属する茨城大学から1月24日(火)にプレスリリースされました。

論文タイトル:

「High-precision radiocarbon dating of political collapse and dynastic origins at the Maya site of Ceibal, Guatemala」

発表雑誌: Proceedings of the National Academy of Sciences USA (PNAS)

論文内容の詳細については、下記のURLをご覧ください。

<http://www.pnas.org/content/early/2017/01/17/1618022114.abstract>

受賞

○文化科学研究科 国際日本研究専攻（2013 年論文博士）野呂田純一 氏
全日本博物館学会 2016 年度学会賞を受賞
対象業績：『幕末・明治の美意識と美術政策』宮帯出版社

○物理科学研究科 構造分子科学専攻 上村洋平 助教
第 21 回日本放射光学会奨励賞 受賞
研究業績：「超高速時間分解 XAFS による不均一触媒のメカニズムの研究」
奨励賞の概要：

日本放射光学会では、放射光科学分野において優れた研究成果をあげた 35 歳未満の若手研究者の功績を称えるとともに、今後の更なる活躍を奨励するために、毎年 3 名以内で奨励賞が授与されます。

○物理科学研究科 構造分子科学専攻 須田理行 助教
第 66 回日本化学会進歩賞 受賞
研究業績：「有機-無機界面双極子の光制御法の確立と光制御型分子デバイスの開発」
第 97 春季年会会期中の 3 月 17 日（金）に、慶應義塾大学 日吉キャンパスにおいて表彰式が行われます。

受賞コメント

文化科学研究科 国際日本研究専攻（2013 年論文博士）

野呂田純一氏（現：(公財)かながわ国際交流財団 学術・文化交流グループ副主幹）

2013 年に総合研究大学院大学（国際日本研究専攻）にて博士号を取得した論文を基に出版した、拙著「幕末・明治の美意識と美術政策」がこのたび、博物館学の権威ある賞をいただくこととなり大変うれしく思っております。これもひとえに日本国際文化研究センターの教員の皆様のおかげです。誠にありがとうございました。



イベント情報

○3 月 24 日（金）に平成 28 年度春季学位記授与式を挙

行 平成 28 年度春季学位記授与式を、平成 29 年 3 月 24 日（金）に葉山キャンパスにて開催いたします。また、学位記授与式に加え、懇親会も開催されます。

日時：3 月 24 日（金） 13:30～

会場：葉山キャンパス 共通棟 2 階講堂 他

<当日のスケジュール>

・13:30-14:10 学位記授与式

・14:15-14:30 記念撮影

・14:40-16:00 懇親会

○4月11日(火)に平成29年度春季入学式及び総研大未来科学者賞・科学者賞授賞式を挙

葉山キャンパスにて、4月11日(火)に平成29年度春季入学式を開催いたします。当日は、入学式と併せて、総研大未来科学者賞・科学者賞の授賞式が行われます。

日時:4月11日(火) 13:40～(受付 12:00-13:30)

会場:葉山キャンパス共通棟2階講堂

※総研大未来科学者賞・科学者賞の授賞式は、14:15より行われます。

○4月11日(火)～4月14日(木)に平成29年前学期フレッシュマンコースを開催

葉山キャンパスにて、4月11日(火)から4日間、平成29年前学期フレッシュマンコースが開催されます。4日間のスケジュールの中で、主に新入生を対象として、研究者になるため必要なさまざまな学問分野に開かれた知的好奇心、研究とは何か、研究者とは何かの理解に基づく高い倫理観、そして、自分の研究を語り、他者の考えに耳を傾ける優れたコミュニケーション力を学びます。フレッシュマンコースは「知のフロンティア」、「学生セミナー」、「研究者と社会」、「研究者のための“伝える”技術」の4つのセッションからなります。フレッシュマンコースのプログラムを通して、総研大全体の知的広がりを知るとともに、専攻を越えた人的つながりを築き、研究者の倫理とは何か、研究者の「ライティング」と「プレゼンテーション」の基礎的な技術について学びます。

日時:4月11日(火)

・新入生で入学式から参加の場合:受付 12:00-13:30 共通棟正面玄関入り口

・教員・在学生で知のフロンティアから参加の場合:受付 14:00-14:30

詳細については、下記のURLをご覧ください。

[日本語] http://www.soken.ac.jp/event/20170411_0414j/

[English] http://www.soken.ac.jp/event/20170411_0414e/

●その他の総研大の行事

3月

開催日	時間帯	イベント名称・開催場所	参考URL
27日(月)～ 3月2日(木)	9:00(27日) ～16:30	総研大・国立天文台スプリングスクール(春の体験入学) 内容: 国立天文台のキャンパスで最先端の研究者による天文学の基礎の集中講義 会場: 国立天文台三鷹キャンパス 大セミナー室	http://www.soken.ac.jp/event/20170227-3/
27日(月)～ 3月3日(金)		遺伝学専攻 体験入学(春休み定期コース)・見学会 内容: ■体験入学(春休み定期コース)、2/27-3/3 研究室に所属し、研究を体験するプログラム ■見学会(3/1) パネル展示で各研究室での研究活動を紹介 会場:国立遺伝学研究所(静岡県三島市)	http://www.soken.ac.jp/event/20170227/
4日(土)	17:00-19:00	メディア社会文化専攻打ち上げ兼同窓会 会場:ホテルメトロポリタンエドモンド	
6日(月)～ 10日(金)		学融合レクチャー 「結晶の対称性・群論-基礎コース」 担当教員:ネスボロ・マッシモ (フランス・ロレーヌ大学 結晶学教室 教授 / 国際結晶学連合 数理結晶学 委員会前委員長) 開催場所:KEKつくばキャンパス 使用言語:日本語	http://www.soken.ac.jp/event/20170306/

11日(土)	13:00-16:30	高エネルギー加速器科学研究科 大学院説明会 場所：日本教育会館 9F 第五会議室 東京都千代田区一ツ橋2-6-2 内容：研究科の紹介(小川雄二郎研究科長)等	http://kek.soken.ac.jp//sokeandai/archives/6245/
24日(金)	13:30-16:00	平成28年度春季学位記授与式 会場：葉山キャンパス 学位記授与式、記念撮影、懇親会	
24日(金)	11:00-17:30	生命科学研究科 基礎生物学専攻 オープンキャンパス・大学院説明会 会場：基礎生物学研究所 明大寺地区	http://www.nibb.ac.jp/open-campus/

4月

開催日	時間帯	イベント名称・開催場所	参考URL
11日(火)	入学式 13:30-14:15 授賞式 14:15-14:30	平成29年度春季入学式／総研大未来科学者賞・科学者賞授賞式 場所：総研大葉山キャンパス 共通棟2階 講義室	
11日(火)－ 14日(木)		平成29年前学期フレッシュマンコース ○スケジュール 11日 開催挨拶 「知のフロンティア」 「学生セミナー アイスブレイク」 12日 「学生セミナー 研究科・研究紹介」 「研究者と社会（第一部）」 13日 「研究者と社会（第二部・三部）」 14日 「研究者のための“伝える”技術」 閉校式 場所：葉山キャンパス 共通棟2階 講義室 学融合推進センター棟1階	[日本語] http://www.soken.ac.jp/event/20170411_0414j/ [英語] http://www.soken.ac.jp/event/20170411_0414e/
18日(火)－ 21日(金)		総合教育科目「ミクロ・マクロ生物学II」開講 科目名：ミクロ・マクロ生物学II（2単位） 場所：葉山キャンパス 担当教員：大田竜也准教授 （生命共生体進化学専攻） 使用言語：日本語または英語 ※スケジュール及び申込方法については、参考URLをご覧ください。	http://www.soken.ac.jp/event/micromacroseibutsugaku2-2017/

●基盤機関の行事

3月

開催日	時間帯	イベント名称・開催場所	参考URL
開催中 -4月11日 (火)	10:00-17:00	企画展「津波を越えて生きる—大槌町の奮闘の記録」 国立民族学博物館 本館企画展示場	http://www.minpaku.ac.jp/museum/exhibition/thematic/tsunami20170119/index
1月16日 (月)－5月27 日(土)	10:00-16:30	通常展示「和書のさまざま」 国文学研究資料館 展示室	http://www.nijl.ac.jp/pages/event/exhibition/2016/washosama201701.html
1月26日 (木)－3月21 日(火)	10:00-16:30	展示特設コーナー「新古今和歌集とその周辺」 国文学研究資料館 展示室	

4日(土) 5日(日)	10:00-17:30 9:30-17:30	国際シンポジウム「現代アジアにおけるお盆・中元節・七月の祭り—あの世とこの世をめぐる儀礼」 国立民族学博物館 第4セミナー室(本館2階)	http://www.minpaku.ac.jp/research/activity/news/rm/20170304
4日(土)	13:15-	4D2U定例公開 国立天文台三鷹キャンパス	https://prc.nao.ac.jp/4d2u/
5日(日)	13:00-16:50	第23回自然科学研究機構シンポジウム 現代天文学のフロンティア——第二の地球とダークな宇宙 東京国際交流館(プラザ平成) 国際交流会議場	
5日(日)	14:30-15:00	みんなくウィークエンド・サロン—研究者と話そう「イスラームとムスリムの関係性」 国立民族学博物館 本館展示場(ナビひろば)	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon/457
7日(火)	18:30-20:30	日文研・アイハウス連携フォーラム in 京都 ハートピア京都3階大会議室	http://events.nichibun.ac.jp/ja/archives/kohenkai/s005/cal/2017/03/07/index.html
8日(水)	14:30-17:00	開館40周年記念特別展「ビーズ—つなぐ・かざる・みせる」特別公開・内覧会 国立民族学博物館 特別展示館	
9日(木)	14:00-16:30	第64回日文学術講演会 日文研内講堂	http://events.nichibun.ac.jp/ja/archives/kohenkai/s003/cal/2017/03/09/index.html
3月9日(木) - 6月6日(火)	10:00-17:00 (入館は 16:30まで)	開館40周年記念特別展「ビーズ—つなぐ・かざる・みせる」 国立民族学博物館 特別展示館	http://www.minpaku.ac.jp/museum/exhibition/special/20170309beads/index
10日(金)	13:15-	4D2U定例公開 国立天文台三鷹キャンパス	https://prc.nao.ac.jp/4d2u/
10日(金)	18:30-	国立天文台三鷹 定例観望会 <観望天体: 月> 国立天文台三鷹キャンパス	https://prc.nao.ac.jp/stargazing/
11日(土)	12:00-15:30	みんなくミュージアムパートナーズ(MMP)企画 点字体験ワークショップ 国立民族学博物館 エントランスホール(本館1F)	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/mmp/mmp_tenji
11日(土)	13:00-15:00	第398回歴史博講演会「幕末維新期の新吉原遊廓について」 国立歴史民俗博物館 講堂	http://www.rekihaku.ac.jp/events/lecture/index.html
11日(土)	13:15-	4D2U定例公開 国立天文台三鷹キャンパス	https://prc.nao.ac.jp/4d2u/
11日(土)	13:15-15:00	【特別展関連】開館40周年記念特別展「ビーズ—つなぐ・かざる・みせる」関連イベント プレスレットを作ろう—植物ビーズの魅力 万博記念公園 自然観察学習館	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/workshop/ws_20170311
12日(日)	14:30-15:00	みんなくウィークエンド・サロン—研究者と話そう「新構築展示のこころとかたち」 国立民族学博物館 本館展示場(ナビひろば)	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon/458
14日(火) - 5月7日(日)	9:30-17:00	企画展示「デジタルで楽しむ歴史資料」 国立歴史民俗博物館 企画展示室	http://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/project/index.html
15(水)	16:00-17:00	退職記念講演会(塚田誠之) 国立民族学博物館 本館2階第5セミナー室	

18日(土)	12:00-13:30	極地研サイエンスカフェ特別編「南極で楽しく暮らすためのLowテクノロジー」	http://www.nipr.ac.jp/science-museum/event.html
18日(土)	13:00-17:00	2016年度北極域研究推進プロジェクト公開講演会『北極研究と日本—我々はなぜ北極を研究するのか—』	http://www.arcs-pro.jp/20170318kouenkai/
18日(土)	13:15-	4D2U定例公開 国立天文台三鷹キャンパス	https://prc.nao.ac.jp/4d2u/
18日(土)	13:30-15:00 (受付開始 13:00)	【特別展関連】第466回みんなくゼミナール「人間にとってビーズとは何か?—特別展『ビーズ—つなぐ・かざる・みせる』」から 国立民族学博物館 講堂	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/seminar/466
19日(日)	14:00-16:10	【企画展関連】研究公演「城山虎舞 in みんなく」 国立民族学博物館 講堂	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/slp/20170319toramai
21日(火)	18:30-20:45	公開講演会「恵(めぐ)みの水、災(わざわ)いの水—川、湖、海—」 国立民族学博物館 毎日新聞オーバルホール	http://www.minpaku.ac.jp/research/activity/news/alp/170321
22日(水)	15:00-17:00	本館展示新構築完成記念式典・須藤健一館長退任記念講演会 国立民族学博物館 講堂	
23日(木)	11:30-12:15	ギャラリートーク 国文学研究資料館 展示室	
25日(土)	未定	子ども向けサイエンスカフェ「めざせ! 極地の研究者」	http://www.nipr.ac.jp/science-museum/event.html
25日(土)	13:30-15:30	第216回くらしの植物苑観察会 「草木染めの歴史と科学」 国立歴史民俗博物館 くらしの植物苑	http://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/plant/observation/index.html
25日(土)	18:30-	国立天文台三鷹 定例観望会 <観望天体: しし座γ星 アルギエバ(二重星)> 国立天文台三鷹キャンパス	https://prc.nao.ac.jp/stargazing/
28日(火)	13:30-15:00	小松和彦所長文化功労者顕彰記念講演会 日文研内講堂	http://events.nichibun.ac.jp/ja/archives/kohenkai/s003/cal/2017/03/28/index.html

4月

開催日	時間帯	イベント名称・開催場所	参考URL
開催中 -6月6日(火)	10:00-17:00	開館40周年記念特別展「ビーズ—つなぐ・かざる・みせる」 国立民族学博物館 特別展示館	http://www.minpaku.ac.jp/museum/exhibition/special/20170309beads/index
開催中 -4月11日(火)	10:00-17:00	企画展「津波を越えて生きる—大槌町の奮闘の記録」 国立民族学博物館 本館企画展示場	http://www.minpaku.ac.jp/museum/exhibition/thematic/tsunami20170119/index
2日(日)	14:30-	【特別展関連】みんなくウィークエンド・サロン—研究者と話そう 国立民族学博物館 本館展示場(ナビひろば)	
4日(火) 6日(木)	14:00-16:30	2017年度みんなく春の遠足・校外学習 事前見学&ガイダンス 国立民族学博物館 本館2階第5セミナー室	
8日(土)	9:00-16:00	一般公開・国立遺伝学研究所	https://www.nig.ac.jp/koukai/
9日(日)	14:30-	【特別展関連】みんなくウィークエンド・サロン—研究者と話そう 国立民族学博物館 本館展示場(ナビひろば)	

11日(火)	14:00-16:00	日文研フォーラム ハートピア京都3階大会議室	
15日(土)	13:30-15:00	第467回みんなくゼミナール「エジプトでイス ラーム思想のテクストを読む」 国立民族学博物館 講堂	
16日(日)	14:30-	【特別展関連】みんなくウィークエンド・サロ ン研究者と話そう 国立民族学博物館 本館展示場(ナビひろば)	
23日(日)	14:30-15:00	みんなくウィークエンド・サロン研究者と話 そう 国立民族学博物館 本館展示場(ナビひろば)	
30日(日)	14:30-15:00	みんなくウィークエンド・サロン研究者と話 そう 国立民族学博物館 本館展示場(ナビひろば)	



★【広報社会連携室から】

○総研大教員のメディア出演情報

広報社会連携室では、各専攻の担当教員の「メディア出演」を総研大HP並びに総研大ニューズレター掲載等により発信しておりますので、出演情報を是非お寄せください。なお、メディア出演情報は「出演します/出演しました」どちらでも構いませんので、ご提供のほどよろしくお願いいたします。

○神奈川新聞連載コラム記事について

本学の知名度向上と総研大教員の研究の社会還元を目的として、神奈川新聞リレー記事『最先端の現場－総研大発－』を6月10日(金)から毎月隔週(第2・第4金曜日)で掲載しております。3月1日現在、連載全24回中第18回目まで記事が掲載されました。連載記事は、総研大HP上でも見ることができます。

詳細は、下記のURLをご覧ください。<http://www.soken.ac.jp/disclosure/pr/column/>

(総研大HP上での掲載は、権利関係上、掲載日から1年間のみとなります。)

【連載第18回までの執筆者一覧】

掲載順	掲載日	研究科	専攻	執筆者	役職
1	6/10	葉山本部	広報社会連携室	眞山聡	講師
2	6/24	物理	宇宙科学	橋本博文	准教授
3	7/8	文化	国際日本研究	細川周平	教授
4	7/22	物理	構造分子科学	正岡重行	准教授
5	8/13	生命	遺伝学	斎藤成也	教授
6	8/26	複合	極域科学	猪上淳	准教授
7	9/9	高エネ	物質構造科学	千田俊哉	教授
8	9/23	文化	日本歴史研究	山田康弘	教授
9	10/14	物理	天文学	有本信雄	教授
10	10/28	複合	統計科学	吉田亮	准教授
11	11/11	先端	生命共生体進化学	寺井洋平	助教
12	11/25	文化	地域文化学	野林厚志	教授
13	12/9	高エネ	加速器科学	土屋公央	准教授
14	12/23	生命科学	生理科学	井本敬二	教授(専攻長)
15	1/13	文化	日本文学研究	海野圭介	准教授
16	1/27	物理	核融合科学	後藤基志	准教授
17	2/10	葉山本部	学融合推進センター	西中美和	特任准教授
18	2/24	物理	機能分子科学	小杉信博	教授

次回の連載は、
3月10日(金)です！

新聞発行後、総研大HPに記事を掲載いたしますので、ぜひ総研大HPへお越し下さい！

○広報特派員の募集について

広報社会連携室では、広報特派員を募集しております。総研大の広報活動にご協力いただける学生さんの応募をお待ちしております。

詳細につきましては、下記URLをご覧ください。

<http://www.soken.ac.jp/disclosure/pr/information/corres/>

【編集後記】

総研大ニューズレター第105号をお届けします。今回の編集後記では、広報社会連携室で作成しました「総研大広報チラシ」を紹介いたします。第103号、104号でも紹介しておりますが、この度、広報社会連携室では総研大紹介用の1枚ものチラシを作成しました！名付けて、「総研大広報チラシ」です。広報チラシは、和英ともに作成しましたので、基盤機関事務のご担当者より毎月いただいておりますイベント情報をもとに送付いたしますので、総研大各種イベントでの配付をお願いいたします。「総研大広報チラシ」については、広報社会連携室[kouhou1@ml.soken.ac.jp]までお問い合わせください。

トピックスの原稿をご寄稿いただけましたら、総研大ニューズレターへ掲載いたしますので、総研大関係のイベント、受賞情報等ありましたら、是非とも広報社会連携室まで情報をお寄せください。



総研大広報チラシ(和文)

広報社会連携室 E・A

広報社会連携室では、メディアを通じて総研大の研究成果を広く社会に発信しています。特に、総研大在学生が筆頭著者として研究論文を出版する際、プレスリリースを行う場合は、総研大と所属専攻（基盤機関）との共同プレスリリースを行っておりますので、是非総研大広報社会連携室までご連絡ください。

各専攻の学生・担当教員の「メディア出演」、「受賞・表彰」および「地域社会と連携・密着したアウトリーチ活動等の社会連携・貢献活動」についてニューズレター、ウェブ掲載等により発信しておりますので、各種情報を是非お寄せください。

研究論文を投稿する場合や、メディア等に出演される場合は、「総合研究大学院大学」と表記いただきますよう、総研大の知名度向上にご協力をお願いいたします。

発行 2017年3月1日
編集



国立大学法人
総合研究大学院大学
SOKENDAI (THE GRADUATE UNIVERSITY FOR ADVANCED STUDIES)

神奈川県三浦郡葉山町（湘南国際村）

広報社会連携室

TEL 046-858-1590 / FAX 046-858-1632

Email kouhou1(at)ml.soken.ac.jp

※(at)は@に変換してください。

©2017SOKENDAI